

## 地域資源の恩恵

笠間市は東京から約100km、茨城県の県央西部に位置し、三方を山々に囲まれ、年間を通して気候は穏やかで、古くから日本三大稲荷に数えられる笠間稲荷神社の鳥居前町、また笠間城の城下町として栄えてきた。最近では笠間焼の生産地として知られ、春や秋に催される陶器市の時期には、多くの観光客で賑わいを見せている。

代表する地場産業をみると、古くから石材の産地として有名である。稲田で産出されることから「稲田石」と呼ばれ、花崗岩に分類される御影石で、その色の美しさと耐久性などで高い評価を受けている。明治以降建築された東京の施設の多くはこの稲田石



移住者を呼び込む滞在型農園「クラインガルテン」① 観光で賑わう笠間つつじ公園 ② 提供・笠間市



一般財団法人日本不動産研究所<sup>®</sup>

## 地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

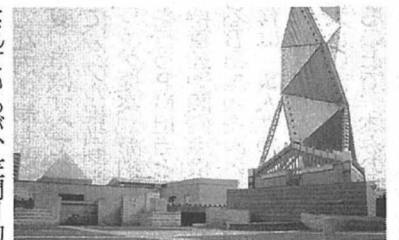
### 笠間市 御影石の産地

## 就農者減少で進む農地の荒廃

## 移住呼び込む農村体験

ど、県内では茨城県庁、茨城芸術館などで使われている。かつては一大石材産地として栄え、全盛期は石材会社が一80社程度あったようだが、現在は60社程度まで縮小しているとのことである。

また、陶芸の街としても人気が高く、北関東では栃木県の益子と並ぶ一大産地となっている。GWに開催される陶炎祭は様々な窯元や陶芸家が参加する一大陶器市として、毎年多くの観光客が来場している。この笠間焼の原料とな



稲田石が使用されている茨城芸術館

が使用され、日本銀行、最高裁判所、東京駅丸の内口な

る粘土も、地場の貴重な資源である稲田石が長い年月をかけて風化された成分と言われている。このほかには豊かな自然環境も魅力のひとつであり、春のつつじまつりや秋の菊まつりなど美しく咲き誇る四季折々の花々が楽しめる。少しお酒の話も紹介させて頂きたい。笠間市には有名な酒蔵が4つあり、いずれも大変おいしいお酒を造っている。酒造りには水が重要であるが、笠間の水は稲田石の岩盤を浸透してきた水で、銘酒のルーツは稲田石にあるとも言っても良い。酒蔵メーカー

として、茨城県内における高速自動車道等の交通インフラ整備の進捗等も相まり、県南及び県西エリアで地価は下げ止まりから緩やかな上昇傾向が見られている。一方で笠間市が存する県央エリアにおいては人口減少・高齢化が深刻な問題で、不動産市況の回復は見られず、地価の弱含みも依然として続いている。

### 地域活性化の新たな動き

一方、笠間市ならではの地域資源を活かした活性化の試みも進められている。笠間市は焼き物の街として広く認知されているが、笠間自動車美術館や農業体験などの観光資源も豊富で、祭事などの年中行事も多く、ホームページやソーシャルメディアなどを活用したインバウンド向けの情報発信にも力を入れている。また、近年就農者の減少や高齢化で農地の荒廃が進むなか、興味深い試みとして本格的な滞在型市民農園「笠間クラインガルテン」が01年にオープンした。都市に暮らす人々の生活の第二の拠点として、地域住民と交流しながら農村体験が出来る施設であり、利用者の約8割は東京、千葉、埼玉からリタイアした層が占めているように、最長5年まで継続利用が可能であり、体験後移住したケースも増えている。笠間市の様々な地域資源を生かすことで、伝統文化の継承や空き家対策、地域活性化などの波及効果を期待したい。(水戸支所、不動産鑑定士・植野裕高)